さくらっこ

三春町立中郷小学校　学校便り
平成３０年１１月１４日（水）No. ２６
発行者　校長　佐藤千昭

子　育　て　特　集

褒めて育てる

今は、「褒めて育てる」時代と言われます。子どもの能力を伸ばすために、がんばった部分を褒め、自信を付けさせることが大切です。しかし、時には「叱る」ことも必要です。

子どもに伝わる叱り方

１　本物の関係を求めている

上手に叱ることはとても難しいことです。場合によっては、叱ったことで子どもがやる気をなくし、親への不信感を高めることもあります。

「どのような先生に教えてもらいたいか」を聞いた調査があります。それによると、

①「勉強のわからないところを教えてくれる先生」
②「厳しいが理由をいって叱る先生」
③「仲間はずれの時、かばってくれる先生」　等を６割の子どもがあげています。逆に、「しゃべっていても叱らない先生」は、２割の子どもしかあげていません。

この結果から、叱るべき時叱らない先生に対しては厳しい目で見ています。子どもは、誤った行動は、きちんと叱るべきと考えています。

子どもの思い → 叱ってほしいではなく、もっと自分のことを向いてほしい

→ 大人との本物の関係

〇上手な叱り方とは

叱る側が子どもの成長を心から願い、日頃から愛情ある関わりを持つ

２　理由付け、短い言葉で

① 感情的に叱らない。
➡ 子どもは感情的な言葉を嫌います。「感情的になりそう」と気づいたら一度子どものそばを離れて冷静になり、落ち着いた状態で注意すべきことを理由付け短い言葉で伝えてください。

②「なぜ」の問いかけは１回だけにする。
➡ 叱った後は、「なぜ？」という問いかけを１回だけ聞く。何回も聞くと子どもを追い詰めることになります。

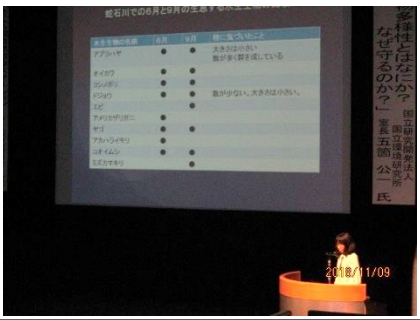
③ 夫婦で同時に叱らない。
➡ 夫婦がお互いに違う役割をもち、お互いに補うことが大切です。お母さんが言うべきことを言ったら、お父さんは子どもの思いを共感的に聞く役割に徹底するなど、そうした役割を事前に夫婦で話し合ってください。

３　振り返りで豊かな関係に

① 感情的に叱ってしまうことは誰にでもよくあることです。大切なことは、叱った後に「振り返り」ができるかどうかです。振り返ると同時にその時の子どもの反応（表情・態度等）を確認して、上手に」フォローしましょう。

② 子育てには様々な悩みは付きものです。より豊かな親子関係を築くためにも、子育てを夫婦だけで抱えずに、周囲の人々を頼りながら行っていきましょう。

さくら湖自然環境フォーラム２０１８　が１１月９日（金）に三春交流館「まほら」で開催され、４年生が総合的な学習の時間に調べたことを「中郷の水環境」と題して発表しました。学区内の川に棲んでいる魚や生物について実際に現地に足を運んで調べたことをまとめた素晴らしい内容でした。



平成３０年度福島県体力・運動能力調査結果

○評価：総合評価ＡＢの児童の割合が昨年度（６５％）から６８％に増加し、ＤＥの児童の割合が（１４％）から１０％に減少し、体力が向上しました。全体的に全国レベルと言えます。

●課題：体力の構成要素では、全校で柔軟性が劣ります。体育の時間で、準備運動や整理運動を含め柔軟体操対策やストレッチ等も取り入れたいと思います。